

第8 企業会計決算の状況

県が独立採算性を原則とする企業的色彩の強い事業を行う際に、法律や条例によって設置するもので、地方公営企業法の全部又は一部の適用を受ける公営企業の会計をいいます。

企業会計は、公共の福祉を目的とするとともに、企業の経済性を発揮することも求められており、その経理については、地方公営企業法の定めるところによります。

この会計方式は、一般のいわゆる官公庁会計が現金主義により経理されるのに対し、発生主義に基づく複式簿記方式により経理される点で大きく異なっています。

三重県では、公共の福祉を増進するため、水道事業、工業用水道事業、電気事業及び病院事業の4事業の経営を行っていますので、以下、それぞれの企業会計ごとに、その決算状況を説明します。

1 水道事業の概況

営業関係では、南勢志摩水道用水供給事業（志摩系：給水能力41,000 /日、南勢系：給水能力128,150 /日）及び北中勢水道用水供給事業（北勢系木曾川水系：給水能力80,300 /日、北勢系三重用水系：給水能力51,000 /日、北勢系長良川水系：給水能力13,400 /日、中勢系雲出川水系：給水能力81,416 /日、中勢系長良川水系：給水能力58,800 /日）の2事業を運営し、平成22年度は県内17市町に対し、延べ81,515,980 の給水を行いました。

平成22年度の営業成績について、事業収益は10,084,953千円（対前年度比84.0%）で、内訳は、営業収益9,893,799千円（対前年度比84.4%）及び営業外収益191,154千円（対前年度比69.1%）であり、また、事業費用は14,323,504千円（対前年度比141.7%）で、内訳は、営業費用7,641,849千円（対前年度比90.3%）、営業外費用1,246,858千円（対前年度比77.1%）及び特別損失5,434,797千円（対前年度比21,141.3%、伊賀水道用水供給事業の伊賀市水道事業への一元化に伴うもの）です。

以上の結果、事業収益と事業費用の差額4,238,551千円（対前年度比皆増）が当年度の純損失となりました。

一方、建設事業は平成10年度から北中勢水道用水供給事業（北勢系第2次拡張事業長良川水系、総事業費20,407,000千円、給水能力18,000 /日）の建設を実施し、平成23年4月に全部給水を開始しました。

また、南勢志摩水道用水供給事業の一部については、平成23年4月に志摩市水道事業へ一元化されました。

平成22年度損益計算書 (平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(単位：千円)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業費用	7,641,849	営業収益	9,893,799
原水及び浄水費	2,232,978	給水収益	9,889,397
配水費	569,915	その他営業収益	4,402
業務費	451,522		
総係費	602,505		
減価償却費	3,619,624		
資産減耗費	165,304		
営業外費用	1,246,858	営業外収益	191,154
支払利息	1,243,088	受取利息	33,076
受託工事費	3,722	他会計補助金	152,156
雑支出	48	補助金	135
特別損失	5,434,797	受託工事収益	3,722
その他特別損失	5,434,797	雑収益	2,065
		当年度収益合計	10,084,953
		当年度純損失	4,238,551
合 計	14,323,504	合 計	14,323,504

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

平成22年度損益計算書<P/L> (平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(単位：千円、% (構成比))

借 方	貸 方
営業費用 7,641,849(53.4%)	営業収益 9,893,799(69.1%)
営業外費用 1,246,858(8.7%)	
特別損失 5,434,797(37.9%)	営業外収益 191,154 (1.3%)
	当年度純損失 4,238,551(29.6%)

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

貸借対照表<B/S> (平成 23 年 3 月 31 日現在)

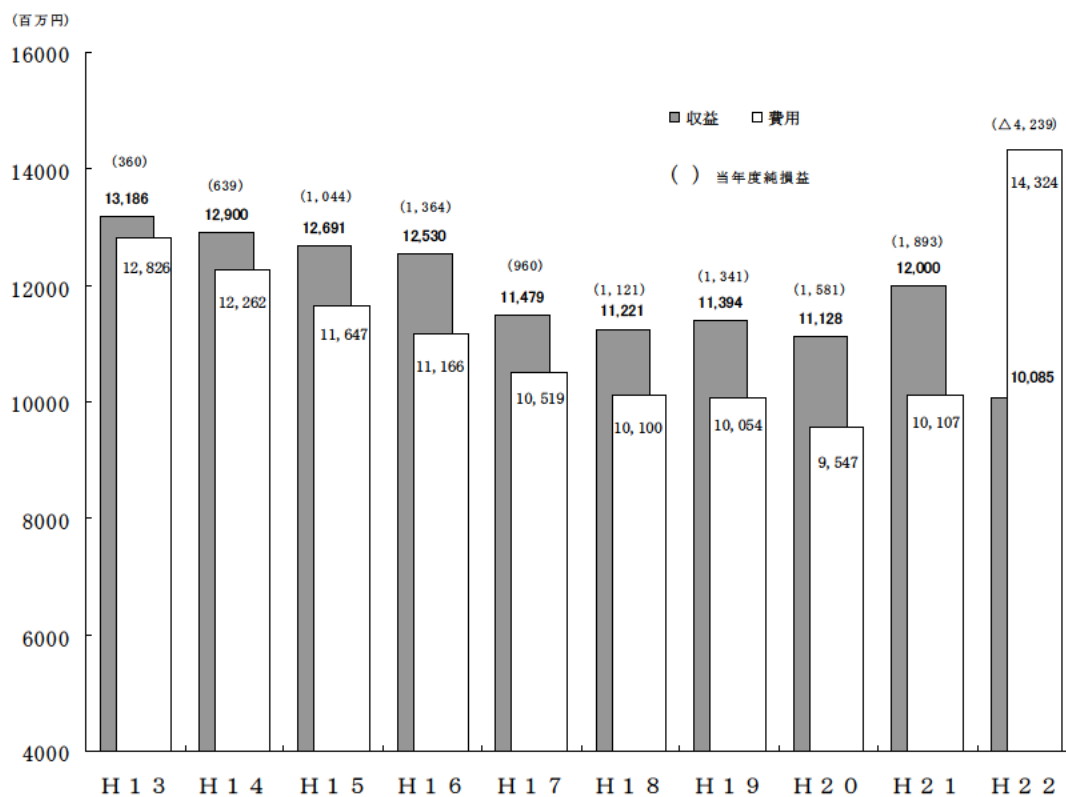
(単位：千円、%(構成比))

借 方	貸 方
固定資産 160,911,879(91.7%)	固定負債 6,727,114 (3.8%)
	資本金 122,556,472(69.8%)
流動資産 14,639,488(8.3%)	剰余金 45,285,650 (25.8%)
	資本剰余金 46,227,898
	欠損金 942,247

流動負債
982,131(0.6%)

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

年度別の総収益・総費用の推移



(四捨五入のため、差引が合わない場合があります。)

2 工業用水道事業の概況

営業関係では、北伊勢工業用水道事業（契約水量 733,340 日）、多度工業用水道事業（契約水量 10,000 日）、中伊勢工業用水道事業（契約水量 17,670 日）、松阪工業用水道事業（契約水量 38,500 日）の4事業を運営し、県内企業の生産活動における水需要に応えるため、平成22年度においては108工場に対し、延べ174,525,715の工業用水を供給しました。

平成22年度の営業成績について、事業収益は6,054,562千円（対前年度比97.5%）で、内訳は、営業収益5,973,930千円（対前年度比97.6%）、営業外収益50,426千円（対前年度比66.5%）及び特別利益30,206千円（対前年度比254.8%）であり、また、事業費用は5,285,224千円（対前年度比91.2%）で、内訳は、営業費用4,645,831千円（対前年度比97.5%）、営業外費用610,645千円（対前年度比92.9%）及び特別損失28,748千円（対前年度比7.8%）です。

以上の結果、事業収益と事業費用の差769,338千円（対前年度比185.0%）が当年度の純利益となりました。

一方、改良事業については、地震等の災害に備えるとともに工業用水の安定給水を図るため、北伊勢工業用水道等の老朽劣化施設の更新・補強工事など施設改良を計画的に実施しました。

平成22年度損益計算書（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

（単位：千円）

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業費用	4,645,831	営業収益	5,973,930
原水及び浄水費	1,579,225	給水収益	5,391,167
配水費	200,466	その他営業収益	582,763
業務費	326,087		
総係費	338,944		
減価償却費	2,139,463		
資産減耗費	61,648		
営業外費用	610,645	営業外収益	50,426
支払利息	603,487	受取利息	34,648
受託工事費	7,110	他会計補助金	4,675
雑支出	48	受託工事収益	7,110
特別損失	28,748	雑収益	3,993
その他特別損失	28,748	特別利益	30,206
		固定資産売却益	17,846
当年度費用合計	5,285,224	その他特別利益	12,360
当年度純利益	769,338		
合 計	6,054,562	合 計	6,054,562

（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

平成22年度損益計算書<P/L> (平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(単位：千円、% (構成比))

借方		貸方	
営業費用	4,645,831 (76.7%)	営業収益	5,973,930 (98.6%)
営業外費用	610,645 (10.1%)	営業外利益	50,426 (0.9%)
特別損失	28,748 (0.5%)	特別利益	30,206 (0.5%)
当年度純利益	769,338 (12.7%)		

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

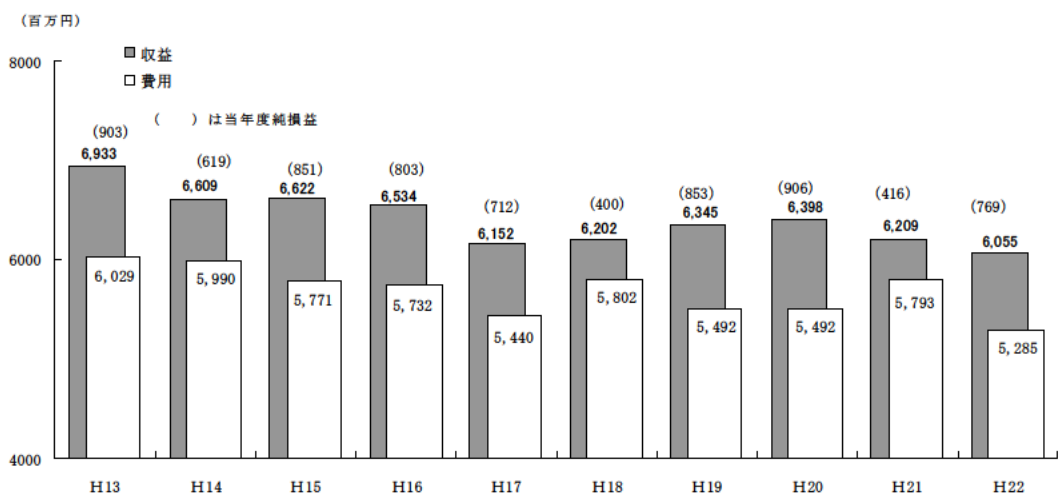
貸借対照表<B/S> (平成23年3月31日現在)

(単位：千円、% (構成比))

借方		貸方	
固定資産	120,534,222 (89.5%)	固定負債	9,031,289 (6.7%)
流動資産	14,121,014 (10.5%)	流動負債	961,124 (0.7%)
		資本金	82,799,199 (61.5%)
		剰余金	41,863,624 (31.1%)
		資本剰余金	41,093,021
		利益剰余金	770,604

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

年度別の総収益・総費用の推移



(四捨五入のため、差引が合わない場合があります。)

3 電気事業の概況

営業関係では、水力発電事業については1月以降の降雨量が例年より少なかった影響を受け、発電量は目標電力量 296,623,000kWh に対し、供給電力量 292,169,021kWh (98.5%)にとどまりました。

RDF焼却・発電事業については、三重ごみ固形燃料発電所において、製造団体から昨年を上回るRDF 48,055 トンを受け入れ、63,256,600 kWhの発電を行いました。

平成22年度の営業成績について、事業収益は3,228,858 千円(対前年度比110.2%)で、内訳は、営業収益2,399,694 千円(対前年度比111.0%)、附帯事業収益815,921 千円(対前年度比108.9%)及び営業外収益13,243 千円(対前年度比72.2%)であり、事業費用は3,210,396 千円(対前年度比99.4%)で、内訳は、営業費用1,928,582 千円(対前年度比106.5%)、附帯事業費用1,041,574 千円(対前年度比86.2%)、営業外費用181,401 千円(対前年度比85.5%)及び特別損失58,839 千円(対前年度比皆増)です。

以上の結果、事業収益と事業費用の差額18,462 千円(対前年度比皆増)が当年度の純利益となりました。

平成22年度損益計算書（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

（単位：千円）

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業費用	1,928,582	営業収益	2,399,694
宮川第一水力発電費	111,504	電力料	2,398,266
宮川第二水力発電費	191,588	その他営業収益	1,428
宮川第三水力発電費	117,105		
長水力発電費	77,917		
三瀬谷水力発電費	510,798		
大杉貯水池費	129,037		
青蓮寺水力発電費	19,608		
大和谷水力発電費	129,961		
蓮水力発電費	168,237		
青田水力発電費	165,013		
比奈知水力発電費	55,378		
一般管理費	252,437		
附帯事業費用	1,041,574	附帯事業収益	815,921
RDF発電費	1,041,574	電力料	451,777
		その他附帯事業収益	364,145
営業外費用	181,401	営業外収益	13,243
支払利息	181,377	受取利息	7,434
雑支出	24	他会計補助金	5,603
		雑収益	206
特別損失	58,839		
その他特別損失	58,839		
費用合計	3,210,396		
当年度純利益	18,462		
合 計	3,228,858	合 計	3,228,858

（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

平成22年度損益計算書<P/L>（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

（単位：千円、%（構成比））

借 方	貸 方
営業費用 1,928,582 (59.7%)	営業収益 2,399,694 (74.3%)
附帯事業費用 1,041,574 (32.3%)	
特別損失 58,839 (1.8%)	附帯事業収益 815,921 (25.3%)
営業外費用 181,401 (5.6%)	
当年度純利益 18,462 (0.6%)	営業外収益 13,243 (0.4%)

（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

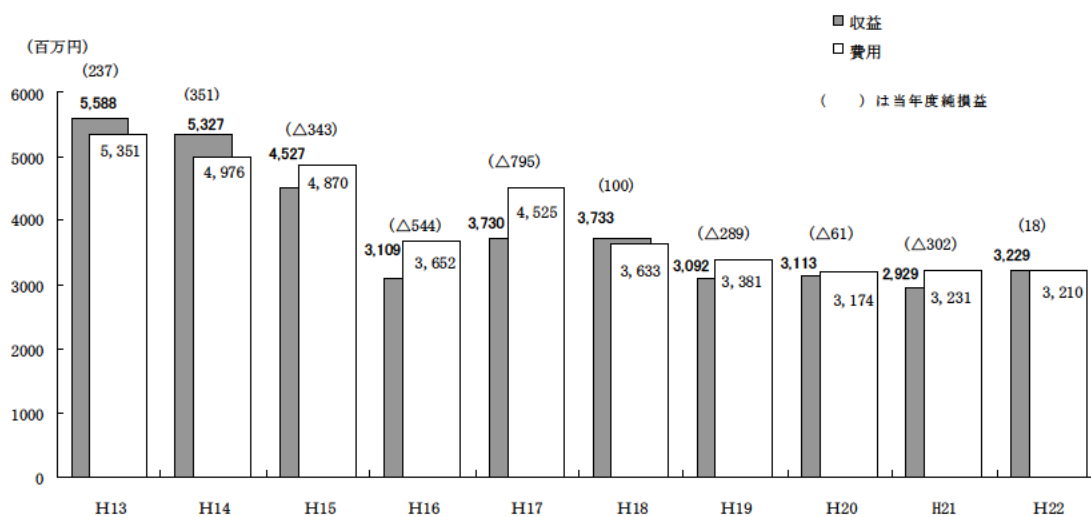
貸借対照表<B/S> (平成 23 年 3 月 31 日現在)

(単位：千円、%(構成比))

借 方	貸 方
固定資産 14,979,073 (83.2%)	資本金 16,456,584 (91.4%)
流動資産 3,034,282 (16.8%)	固定負債 309,836 (1.7%)
	流動負債 307,438 (1.7%)
	剰余金 939,496 (5.2%) 資本剰余金 3,145,990 利益剰余金△2,206,494

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

年度別の総収益・総費用の推移



(四捨五入のため、差引が合わない場合があります。)

4 病院事業の概況

三重県病院事業は、総合医療センター、こころの医療センター、一志病院及び志摩病院の4病院を運営し、県民が健康で文化的な生活ができる社会の実現に貢献するため、良質で満足度の高い医療の継続的な提供に努めております。

しかしながら、各県立病院では新しい医師臨床研修制度の導入等を契機とした全国的な医師不足や、度重なる診療報酬の引き下げ改定等の影響で、病院が本来有する機能を十分に発揮できなくなり、その結果として非常に厳しい経営状況となっています。

平成22年度の県立病院の運営状況については、医師不足に伴う志摩病院の患者数の減少等により、当年度における利用状況は、入院患者数が延べ315,396人(1日平均864.1人)、外来患者数が延べ294,531人(1日平均1,212.1人)で、前年度に比べ入院患者数は延べ10,981人の減少、外来患者数は延べ5,818人の減少となりましたが、収益については、診療内容の充実に努めた結果、診療単価の向上により医業収益は増加し、医業外収益を加えた経常収益は18,109,700,210円となり、前年度に比べ2.4%の増加となりました。

一方、費用については、給与費、報償費等は前年度に比べ増加したものの、診療材料費が減少したため医業費用全体では若干の増加に留まりました。さらに、企業債支払利息が減少したことにより医業外費用が減少したため、医業費用と医業外費用を合わせた経常費用は前年度に比べ0.2%減少の18,529,631,816円となりました。

その結果、これらを差し引きした経常損益については、病院事業全体では前年度に比べ462,669,146円の収支改善となったものの、419,931,606円の赤字となっています。また、退職給与引当金の相当分である134,904,000円の特別損失を加えた純損益については、554,835,606円の赤字となっています。

なお、病院別の経常損益の状況については、こころの医療センターが6年連続の黒字、総合医療センター、一志病院が7年ぶりに黒字となりましたが、志摩病院については昨年に引き続き赤字となっています。

平成22年度損益計算書（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

（単位：千円）

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
医業費用	17,464,875	医業収益	14,028,771
給与費	9,849,360	入院収益	10,076,932
材料費	3,301,771	外来収益	3,642,331
経費	2,892,669	その他医業収益	309,509
減価償却費	1,334,944		
資産減耗費	26,349	医業外収益	4,080,929
研究研修費	59,782	受取利息配当金	8,954
医業外費用	1,064,757	他会計補助金	757,893
支払利息及び企業債取扱諸費	641,112	補助金	34,423
繰延勘定償却	83,295	負担金	3,118,163
患者外給食材料費	2,470	その他医業外収益	161,496
雑損失	337,880		
特別損失	134,904	当年度収益合計	18,109,700
		当年度純損失	554,836
合 計	18,664,536	合 計	18,664,536

（四捨五入のため、合計に合わない場合があります。）

損益計算書＜P/L＞（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

（単位：千円、%（構成比））

借 方	貸 方
医業費用 17,464,875 (93.6%)	医業収益 14,028,771 (75.2%)
医業外費用 1,064,757 (5.7%)	医業外収益 4,080,929 (21.9%)
特別損失 134,904 (0.7%)	当年度純損失 554,836 (3.0%)

（四捨五入のため、合計に合わない場合があります。）

貸借対照表<B/S> (平成23年3月31日現在)

(単位：千円、%(構成比))

資 産	負債・資本
固定資産 27,135,938 (85.5%)	固定負債 434,140 (1.4%)
流動資産 3,894,552 (12.3%)	流動負債 2,057,242 (6.5%)
繰延勘定 713,126 (2.2%)	資本金 26,078,052 (82.2%)
	剰余金 3,174,182 (10.0%)
	資本剰余金 9,482,219
	欠 損 金 6,308,037

(四捨五入のため、合計に合わない場合があります。)

年度別の総収益・総費用の推移

